

「タテ」社会の労働環境！

「上から目線」の構造

◎○さんは、上から目線で感じが悪い」といった会話をよく耳にしますが、この「上から目線」の正体を暴いた研究が、過去にアメリカのワシントン州立大学で行われています。

この研究では、200名の学生を対象に、自分の能力に対してどう思っているか」について調査が行われました。そのアンケート調査では、自分の能力は生まれつき決まっています、それを伸ばすことは基本的に難しいと思うか」、自分の知性や頭の良さは努力次第で伸ばすことができると思うか」といった内容のIQテストのようなものを大量に行ったそうです。その結果、導き出された一つの結論は、意外にも、自分の能力を伸ばすのは難しい」と考える人ほど、上から目線になりやすいというものでした。

つまり、自分の能力に限界を感じている人は、これ以上努力しても無駄」と考え、何かに挑戦する気も起きずに現状維持に徹するため、その分、失敗」もなく、失敗しない私は能力が高い」と勘違いするわけです。反対の理屈で、自分の能力はまだ伸ばせる」と考える人は、謙虚」な姿勢で多くのことに挑戦するため、分かりにくいながらも、両者の能力に差が開くという話です。

見かけ倒しの実力

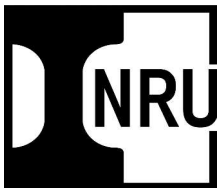
こうした「上から目線」は「タテ社会」でよく起こります。年長者の多くは、有無を言わず先輩から立ててもらおうと、組織内における「立場」が弱くなることはないという安心感から、それを「実力」と勘違いし、努力」の必要性を感じなくなります。そのため、何かに挑戦する「行動力」や、他人の話を親身に聞く「共感力」が歳を重ねるごとに失われていきます。

実際、身近な先輩に職場の問題について相談した結果、そんなもんだろ」何を言っても同じだよ」といった「上から目線」の回答が返ってきたという方は多いですが、組織内でうまくやっている先輩から否定されると、たとえそれが、単にタテ社会に胡坐をかき、問題に対処する能力が養われていないが故の反応だったとしても、相談した私がおかしいの？」と自己不信に陥ってしまうものでも。こうして、組織全体に「もの言えぬ空気」が広がり、労働環境も悪化していくという負の連鎖が生まれます。

「狭い世界」の内情に詳しいことを「視野が広い」と勘違いしているような人も、これと同じだね。



私たちにも起こり得ることだから気をつけないと...



第 147 号

2021年5月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT 092-483-1515